

## 2026年2月15日（日）第二礼拝「イエス様の花嫁の準備」黙示録19章7～9節

天と地、その中のすべてを造られた創造主が、ご自分が造られた被造物である人間と結婚するとは、驚くべきことです。花婿である小羊が、私たちの身代わりとなり、ほふられて死に、私たちを生かし、結婚してくださるのです。そのすべてを御父が備えてくださいました。

第一番目、天の御国の結婚式です。「天の御国は、王子のために結婚の披露宴を設けた王にたとえることができます。」(マタイ 22:2) 王はしもべたちを遣わし、招待しておいた客を呼びました。天の御国の結婚式は霊的なもので、目には見えません。ですから、御国の結婚式に関心がない人たちは、畑仕事や商売(見える働き)に出て行き、王に遣わされたしもべたちを殺してしまいました。その招かれた客とはユダヤ人のことです。彼らは招かれましたが、応答しませんでした。次に、王はしもべたちを大通りに行かせ、「出会った者をみな、宴会に招きなさい」と言いました。大通りとは全世界のことであり、異邦人に福音を伝えることを意味します。宴会場は客でいっぱいになりましたが、その中には、王様が用意した礼服を着ていない人がいました。礼服とは、神様の義の服、イエス・キリストが成し遂げた義の服です。礼服を着ていない人とは、地上で成し遂げた業績を自慢する人を表します。その人は外の暗やみに放り出されてしまいました。天の御国は、イエス様の義の服を着た者だけが入れるところなのです。また、御父が用意したすべてのものを、ただ恵みによって、それを信じる信仰によって入るところです。栄光は私たちが受けるのではなく、すべて主のものです。

第二番目、光り輝くきよい麻布の衣です。この衣とは聖徒の正しい行いです。「神に選ばれた者、聖なる愛されている者として…深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身につけなさい。」(コロサイ 3:12) これらは御霊の実です。聖霊様は私たちをキリストに似た者に変え、キリストの平和が私たちの心を支配するように導かれます。もし、私たちが人を赦さないなら、心が不安や心配で満たされます。そうすると聖霊様は悲しまれます。聖霊様はそのような私たちを憐み、悔い改めへと導き、人を赦す心を与えてくださるお方です。また、私たちがキリストのことばに信仰を持ち、豊かに保つように助けてください。鶏が水を一口飲むと顔を上げるように、聖書を読む前にも祈り、御言葉への信仰が与えられるように聖霊様に助けを求め、読んだ後にも祈り、何度も御言葉を口ずさみましょう。この時に大事なことは、聖書を勝手に解釈するのではなく、書かれた通りに信じ、それを行うことです。

第三番目、感謝です。花嫁の霊性は感謝です。感謝は主に捧げる香りです。逆に不平不満は黒い煙となります。ケルビムは誰も入らないように主の門を守っていますが、イエス様の十字架の血潮の恵みに感謝するなら、主の門を通ることができます。感謝は天国に入る鍵なのです。私たちは感謝を捧げ、賛美しながら主の大庭に入り、花嫁の祝福を受けることができます。感謝する心に主は住んでくださいます。パウロとシラスが獄中で感謝の賛美をしている時、地震が起こり、彼らを縛っていた鎖は解け、牢の扉は開きました。このように、感謝によって私たちを縛る鎖が解け、扉は開き、神様の祝福と救いを受ける力となるのです。